

新たなことを知ろうとするのは、自由を得るため

先日の「爆笑問題 日本の教養～生命（いのち）とは何か？～」は、気鋭の分子生物学者との問答であった。

教授によれば、人間の体は分子レベルで観ると、一年の間にすべて新しい分子に入れ替わってしまうに、自分が自分であり続けることから、根源的な「生命（いのち）とは何か？」についての問答であった。

この分野の話の内容はさておき、印象に残ったのは、「新たなことを知ろうとするのは、自由を得るため。」という教授の一言。

自分は各授業で学生たちに、自分はあまり難しく考えずに、「生きる喜びとは、①人と係わり合う喜び。②知らないことを知る喜び。」でないかと、また、「学問とは、『学』び『問』うことであり、問うとは知識・情報（既成概念）に疑問を持ち、周りに問い、また、自分の考え方がこれでいいのかと常に自身に問うことである。」とも語りかけ、「自分の授業は、みなさん自身が考える材料を提供するだけ。」と公言している。

それだけに、教授の云わんとする「新たなことを知ろうとするのは、自由を得るため。」の言葉は、自分の「②知らないことを知る喜び。」への更なる思索を深める参考になるように思った。

いわゆる学問と云われる各分野では、「その専門分野の道を究める」ということであろうが、それは従来の既成概念に疑問を抱き、新たな概念（学説・言葉）を産み出すことでもあろう。

つまり、既成の自らの知識・概念からの解放であり、自由を得るということか。

我々凡人は新たな概念（言葉）を提示出来る程その道の専門知識・情報は持ち合わせていないが、日常に置き換えて考えるに、教授の言葉には、共有できるものがあるように思う。

例えば、我々は日頃あれこれ考え悩み、戸惑い等が多いが、それはその時点での自分の持つ言葉（概念）の枠の中で考え対応しようとするが故（不自由さ）であり、人や本等から自分の知らなかった考え方や知識を知ること、それら苦悩を乗り越えることが出来ることは、日常的に経験していることである。

言い換えれば、やはり、知らないことを知ろうという姿勢こそが、その折の苦悩から解放され、自分は自分であるという自由、言い換えれば自身のアイデンティティーが得られるということでもあろう。

やはり、「学」び「問」う姿勢は永遠に必要ということであり、まずは、疑問を抱き問い続ける勇気を持つということかも……。